



「春の七草」を暗唱する児童たち

# 学力向上へ指導法探る

授業改善推進事業 展望など意見交換  
標津小で協議会

学力向上のため、今年4月から標津町内の2小学校で行われている「授業改善推進チーム活用事業」について、現状・課題の共有や効果的な指導方法を探る第2回研究協議会が30日、標津小学校（飯田輝雄校長）で開かれた。

道教委が進めるこの事業は、今年度道内9市町21小学校で実施。道教委が派遣した授業改善推進教員が、学級担任と共に「チーム・ティーチング」（TTT）に取り組む。同町では、授業改善推進教員として綾野正巳教諭、佐藤博康教諭が、隔週で2校の国語と算数の授業を担当している。

午前には公開授業が行われ、綾野教諭と担任の前田衣代教諭による2年生の国語では、タブレット端末を活用したり、連携してスムーズに授業を展開。この日の題材である「春の七草」について、短歌のリズムで暗唱させたり、あることを気付かせたり、楽しい音読に重点を置いて暗唱させた。

また午後からの協議会には、町教委や2校の校長らが出席。6月の第1回協議会で指摘された課題の解決に向けた取り組みや、今後の展望について意見交換を行った。青山信一教育長は「授業改善や教諭のスキルアップを実感している。今後、事業を推進し、子どもたちの学びを深めていきたい」と話していた。